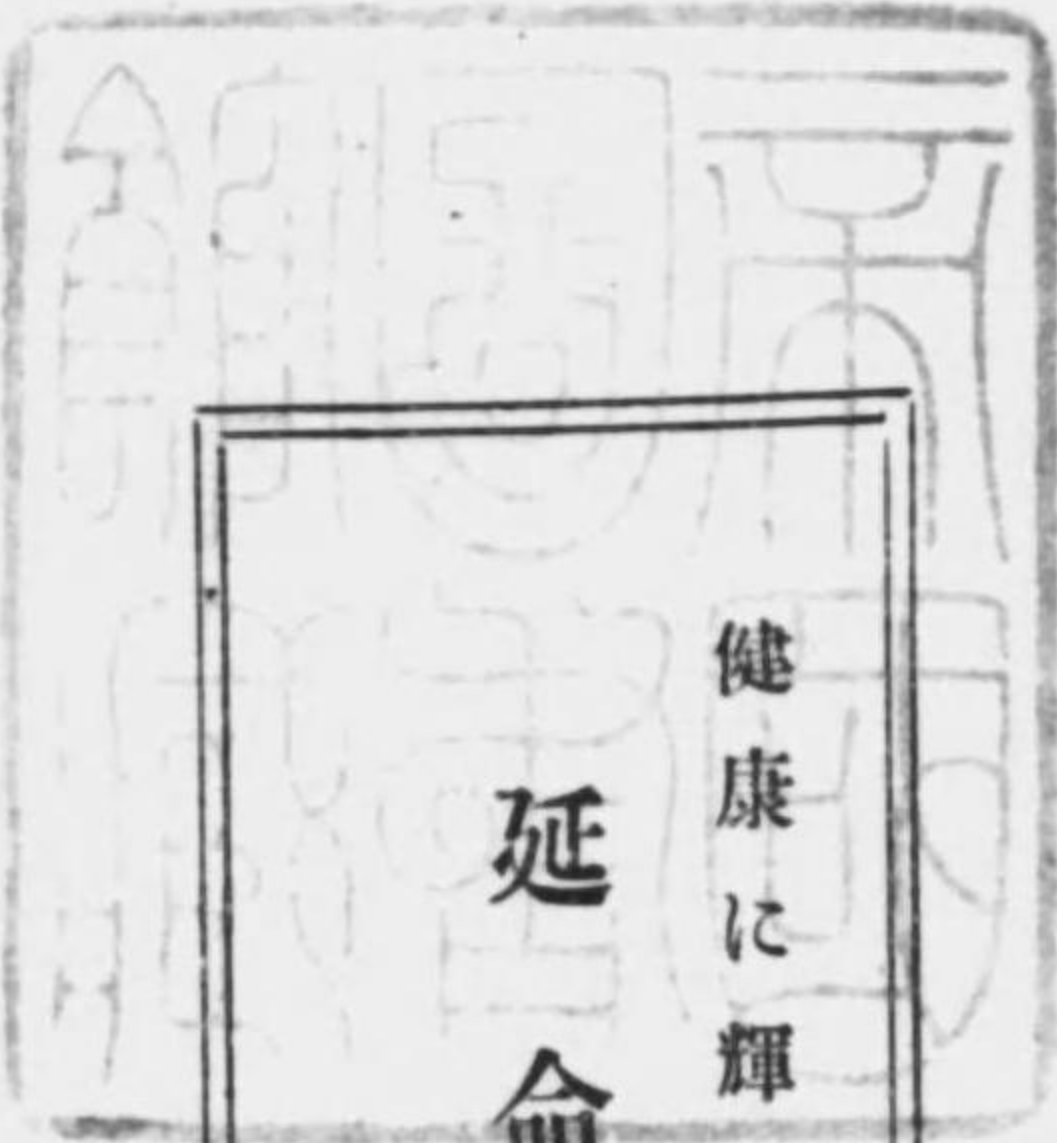


始



特 258
250



健康に輝く

延命長壽の菜



三
越
寄贈本

延命長壽の會

昭和八年一月九日より同廿九日まで
會場 東京・日本橋・三越



足拍子もしつかりと

踊る 高橋その子さん

(百二歳)

(昭和七年敬老會招待會席上)



献上の真綿をつむぐ

土橋みち子さん

(百四歳)



御孫さんといつしよに
庭仕事をする

佐藤彦左衛門さん
(百三歳)



日本一の御高齢者
この度の調査での日本一の御長命の方で
文化十二年の四月十日生れ、即ち本年百
拾九歳でございます。

岩手縣下閉伊郡田老村
倉平ハル様



中華民國第一の長壽者
二百五十八歳と自ら號する

李青雲氏

人壽百歳の賀催をことほぎて

支那は御承知のやうに文字の本場の國だけあつて、文字そのものに、松齡、鶴語などいふ目出度い句がよく見當たる。松齡歲月ながく、鶴語、春秋を記るすなうて云ふのや、元鶴千年の壽、蒼松萬古の春と云つたやうな五言の聯句を始めとして、蓬萊の盤は進長生果、玳瑁の筵は開く百歲觴（長生果とは落花生のこと、觴は盃のこと）などと云ふ七言の句も見える。その延齡、長壽百福吉慶の文字は常に支那四億萬の民衆の氣分を無限に又悠々と引伸ばさせてゐる所のものであるやうに思はるゝ。

松齡長歲月

鶴語記春秋

元鶴千年壽

蒼松萬古春

蓬萊盤進長生果

玳瑁筵開百歲觴

春秋老いず常に山の如く、岡の如く悠久なる氣分に浸つてゐて俗累に煩はさる

ことなく、笑而不答心自ら閑なりの風懷でゐらるゝことこそ本當の延命長壽の秘法とせられてゐるのである。

江蘇省は常熟の城内公園附近を最近自分が散歩してゐたときのこと、畫人王石谷先生の故宅を訪ねたことがある。故宅はさゝやかな君子の草廬そのまゝの古色蒼然たるいほりであつて、門を入れば石徑斜めにその故人を偲ばせる居室には遺愛の家具、文房具ども取りまじめ壁に沿ひ陳列せられてゐる。庭前には音に聞く緑毛龜と云ふが幾十となく飼養せられてゐて王石谷先生の後裔が一々その世話をしてゐらるゝのである。緑毛龜は日本の養龜のことであつて、一甲づゝそれゝ土燒の壺の水中に養はれてゐて、大小取りどりの者がある。小さき錢龜もゐれば、六七寸大の老龜もゐる。總べてその甲と云ふ甲は首もとの處から目のさむるやうな緑毛が長く密生し、身を搖るがせばその毛深き甲が柔らかに動くと云ふ風で、その優麗奇古の雅趣は何とも形容の出來ぬ吉祥氣分を漾はせてゐた。老翁の靜か

に袖をまくり、手を下せるその姿、夕陽の半樓にくれなゐなる邊りは、全く一幅の文人畫そのまゝである。王氏の子孫は之をせめてもの家業として米鹽の資に當てゝでもゐるらしく名流畫人の流れを汲める者の暇つぶしとしては如何にもふさはしくも眺められたのであつた。日本には古くより鳩杖の美風は宮中にも傳はりゐて、國朝尙齒の思想が彌が上にも培はれてゐる事實はあるがまだこの緑毛龜の優趣が鶴は千年、龜は萬年といふ瑞祥畫圖に見る以上實地に取扱はれてゐる風俗を見るまでには至らない。

支那は一方に聯盟飛躍、國家統制、政權確執と云つた蝸牛角上の争ひや石火光中の俗事にのみ維れ日も足らず浮き身を窶してゐるやうに見えてもゐるが人間生活の第一義としての長命富貴の問題になるとこれこそ眞劍である。あらゆる人は一方に社會人としてあのやうに根よく働いてゐると同時に他方には悠々ゆとりを残し、晝に夜に聯句を玩味し、齡龜を愛養し、やゝもすれば、當面に打ちかけら

れた問題なんか之を問題視しようともせず、余に問ふは何の意ぞ、碧山に栖む。桃花流水杳然として去ると云つた風に軽く問題を超越し、巧みに又靜かに反らし切り抜け悠悠々白鬚をしごきながら、高所大所を行く。かうした態度をとるところに云ふに云へぬ長壽法が宿つてゐる。自分の知つてゐる老人に廣東から上海へ年に一二度船の旅に興味を持つて往復してゐる一百零四歳の宿老がある。目、齒、精力、共に全く壯者を凌ぎ、骨つきの肉の料理は勿論、堅いものでも平氣で噛み割るだけの力を有してゐるのである。又ユーモアたつぶりの愛嬌あるエロ話で若いものを集め笑はせたりなどしてゐる。又八十幾歳の老人で平素江南に住み、家にあつては几に凭り火棗をしよつちう口中に含み頬張りつゝモゴ／＼させてゐるぢぢさんがゐる。この棗こそは特別の秘術の施されてゐる曰くつきのものであつて、多少鹽鹹くなつてゐるやうである。この鹹味は天賦の妙味なのであるがこゝの處は文字にその次第を明示するやう活字に附することがむづかしいから差控へ

ておく。詳細は面談に譲らなくてはならぬことを残念に思ふのだが切に讀者の御諒察を請ひたいのである。

いふまでもなく、廣い支那のことであるから百歳以上の長壽者も澤山ゐる。二百歳以上の高齢と自稱してゐる者も時にはゐる。一萬八千歳と云ふ十八史略等に見えてゐる古代人の實在は古傳説上の挿話として取扱ふが適當なるべきも三千年の昔の堯舜禹の時代の穴居生活が今尙河南に、山西に陝西に、又四川にと隨處に幾十萬の元始住民によつて營まれてゐる。水銀を練り藥艸を加へ石の鍋もて之を焚きつめ、所謂練丹術を行つてゐる山民神人なんかもちここに居れば、白鹿白羊を伴件に、印度のガンヂイもどきの仙人たちもゐたりなどする。四川三峡、錯開峽の神秘境に分け入つて見ると、白雲生ずるところ仙洞あり、又萬縣、鄧都、涪州を過ぐれば重慶のしも手に何首烏の本場と知られた長壽縣の縣城が指呼せられる。成都に峨眉に、清溪岷江の邊りにと幾多の白眉超人間生活を營んでゐる元

始人が住まつてゐる。今はソビエツト共産黨國の出店の觀ある江西省に於いてすら廬山の牯嶺近くに行つて見ると蕨の鹽漬等ムシャク／＼嚙んでゐる仙人道士の洞窟裏から何かにと話かけて來る。昔から神仙は生れながらにして不老不死。永久に臨終の死と云ふことがなく、最後は尸解昇天するものだと言はれてゐる。道理で山東泰山の玉皇頂あたりでもどこでも道觀仙洞には、墳墓の址を見ることがない。白骨は粉末化していつしか昇天し、白雲千載空しく悠悠と云つた永遠裡に歸つてしまふのであるといふ。

門松は冥土の旅の一里塚なんて云ふ小刻みの事は云ふを休めよ、人間はもと永遠から永劫の世界に入る石火光中の一瞬間を生涯ときめられて生れ出て來たもの。やれインフレの影響だのやれ滿洲國出現に對する難癖だの、細かい事は云はないで永いタイムが解決するまゝを靜觀して呉れてゐたらよい。功成り名遂げた富者、果報ものなども自分の血壓を心配したり、食後にイモリの黒焼を摘んで見

たりすることは要らぬ。蛇酒よし、蛤蚧酒よし、茱萸よし、鹿鞭固より悪くはない。しかし要は藥石の他力を當てにすべきでなく、自分自身の腦の休養そのものである。物欲の超越、俗累の解脱である。この外に秘法はない。道は邇に在り、その巴蜀の秘境に山寨生活をとれる元始人が何等求むるところなくして却つておのづから延命長壽の實を完うし得てゐる事實のあるはあたら都人士の文化生活にのみ吸吸としてゐるものゝ以つて他山の石とするに足りる大きな皮肉を物語れるものゝやうにも受取れるのである。

昭和八年癸酉春王正月九日

東京小石川小日向臺の小廬にて

石 農 後 藤 朝 太 郎
し る す

人魚の話

よく世間で年よりも遙に若く水々しく見える人のことを「あの人は人魚の肉でも喰つたのだらう」と云ふ。それは不老長生の傳説を持つてゐる八百屋（又は八百比丘尼）の物語から來てゐるのである。雄略天皇の頃、或海岸地方の村人が何處からともなく來た異人に招かれて妙な御馳走にあづかつたが唯一人として箸をつかなかつた。其の中一人の男が其の御馳走を持ち歸つて棚に上げて置いたのを、その家の小娘が見つけ出して一口喰べて見ると非常に甘かつたので殘らず喰べてしまつた。それが人魚の肉だつたので彼女はそれから少しも箸を取らず二百歳の老年になつても美しい少女の儘の容であつた。人魚の肉を喰べるに千歳の命を伴つたものであつたが八百歳の時あま二百年を其國の領主に讓つて彼女は八百歳で命を終つた。八百歳まで少女の儘であつた云ふので八百姫明神と祭られ、八百比丘尼と謂へられたのである。今でも若狭の國小濱町には彼女の遺跡がある云ふ事だ。

然し繪畫や見世物に現はれてゐる人面女體の動物は此世に實在したものでなく、大方海獸の一種でも見誤つたものであらう。和漢三藏圖會を見ると「和蘭陀にては人魚の骨を解毒藥として神効あり。又骨を鑿として腰に佩ぶ、象牙に似て色酒好ならず」と書いてある。

延命長壽の秘訣オンパレード

延命の秘訣（大醫學部調査）

- 一、心掛はのんびり、気分はピンとして其日くを至極平穩無事に繰り返すのである。
- 二、日常生活を何事も規律正しくすること。日當りのよい通氣の良い住居を選び、仕事するにもこの條件に適した場所を定むること。
- 三、早起を勵行して夜更しを絶対に避けること。夜十二時前に眠る一時間は十二時後の四時間間に匹敵する。
- 四、よく眠れ。機會あればすぐ眠れるやうに習慣をつけて置くこと。
- 五、菜食を選べ。肉と酒、煙草や刺戟物は青年の頃でも危険であるが、殊に中年以後は生命を磨滅する礫臼と思惟せよ。
- 六、食物をよく噛め。たとへ柔らかいものでも噛み過ぎる位嚼咀せよ。
- 七、暴飲暴食は己の敵と思ひ、もう少し欲しいと思ふ時に止めること。

米のフイスク及フィシャー博士の書いた十五則

第一 空 氣

- 一、居室の換氣をよくせよ。
- 二、軽く寛かに且つ粗糲なる衣服を着せよ。
- 三、戸外の業務及び娛樂を求めよ。
- 四、出来得れば戸外に眠れよ。
- 五、呼吸を深くせよ。

第二 食 物

- 六、過食及び重量の超過を避けよ。
- 七、獸肉及び鶏卵を控え目に喰ふべし。
- 八、硬き食物、嵩の食物・生の食物各々若干を喰ふべし。
- 九、徐かに喰ふべし。

第三 害 毒

- 一〇、残りなく定時に且つ度々排便せよ。
- 一一、行住座臥、姿勢を正しくせよ。
- 一二、毒素や病毒をして体内に入らしむる勿れ。
- 一三、齒、齒齦及び舌を清潔にせよ。

第四 活 動

- 一四、適度に働き、遊び、休み、眠れ。
- 一五、常に沈靜なるべし。

無 病 長 壽 十 訓 (英國各醫フレッチャー)

- 一、アルコール性の飲料を飲むべからず。
- 二、鼻孔より呼吸せよ。
- 三、窓戸を開放して睡眠せよ。
- 四、多量の飲食をなす勿れ。
- 五、欲するものを飲ふべし。

- 六、食事はよく咀嚼し、且つ脂肪性の物を澤山攝取せよ。(日本人は慎む方がよい)
- 七、毎日随意に運動せよ。
- 八、齒を清潔にせよ。
- 九、笑ふ可き機会を捉へよ。
- 一〇、紙巻煙草は大害あり。

英國の名醫フーカアの不老長生の秘訣

- 一、だん／＼年が寄ると云ふ考へを腦中より驅除せよ。
- 一、食物の量を厳に節制せよ。
- 一、常に前途を樂しめ。
- 一、困難に挫折する勿れ。困難を以つて好箇の教訓となし更に奮起せよ。
- 一、激昂・憤怒する勿れ、徒らに精力を損するばかりなるべし。
- 一、明白の事を思ひ煩ふ事勿れ。
- 一、過去をしてその死骸を葬らしめよ。過去よ、何の交渉あらんや。

- 一、働いて、而して遊べ、遊びて而して働け。
- 一、娛樂を持て。
- 一、金錢を目的として競争場裡に立つ事勿れ。かくの如くしては決して百歳の長壽者たる能はざるべし。
- 一、善良なる善事をなせ。
- 一、思慮は密なるを宜しとし、食物は淡きを宜しとす。
- 一、清潔なる食物と清潔なる思想。
- 一、新鮮なる理想と空氣を多量に吸へ。
- 一、高尚なる理想と目的。
- 一、生活を複雑ならしむる勿れ。却つてこれを簡にせよ。
- 一、笑つて若やくべし。
- 一、猪突の生活をなす勿れ、除行すれば佳く久きに堪ふ。
- 一、後日の爲に貯蓄すべし。

- 一、自ら顧みて年は寄らざるものと思へ。
- 二、精神を若く持てば以つて身體を若く持つべし。
- 三、自己のためにのみ、生存する勿れ。

スミス博士の調査に依る長壽者の秘訣

英國ランブソンスミス博士が長壽者に秘訣を問ひ合せた結果。

- 一、努めて徒歩すること。
- 二、仕事を廢さざること。
- 三、泉水を飲むこと。
- 四、酒を飲まず、喫煙をなさざること。
- 五、簡易生活に甘ずること。
- 六、早起、早寝すること。
- 七、教會に出席すること。

エチソンの攝生生活

一千一百種の發明をした世界人類の大恩人トーマス・エチソン氏の意氣は今も尙壯者を凌ぐものがあり、彼は八十一歳の誕生日の時、百五十名の新聞記者に會見して其の質問に對し次のやうに答へた。

- 一、私は棺桶に入る數日前までズーツと發明を続けるつもりだ。
- 二、毎日、パン、野菜、果物ばかりで、一日の食量は普通の人の一食分位にしか當らない。而も殆ど肉食をせず、時に鱈位の小動物を取るのが關の山だ。
- 三、眠ることは暗黒時間を利用しての無用の惡習慣である。
- 四、自分は殆ど眠らずに仕事に専念した、僅かの睡眠で仕事が出来たのは小食の爲で、其の精力は菜食のお蔭だ。

ソクラテスの食療法

有ゆる慾情を卑み、食物は成る可く簡單に暴飲、暴飲を慎み、常に少量の飲食物を攝ること食する爲に生きるにあらずして、生きんが爲に食するのである。

ブラトリーの長壽法

健康なる國家の民は大麥、小麥を以て製する簡單なる食物のみを用ふ。パン、オリブ、チーズ、葱、燕、無花果、豌豆、隠元豆、ミルテの實、栗あれば何人も平和に健康に其の生を送つて高齡に達す云々。

グラツドストーンの長壽法

- 一、熱 睡
- 二、食物は一回以上咀嚼すること。
- 三、朝食前の散歩、巨木の伐採。
- 四、禁酒、禁煙。

ロイフ博士の長壽法

オスカル・ロイフ博士は嘗て我が駒場の農科大學で教鞭を執られた方で、現在では九十に近い高齡を以て尚ベルリンのウイルヘルム研究所で植物生理學の研究を続けられてゐる。同氏の語られた長壽法は左の通りである。

「老人は動脈硬化に罹るものが多いが、これは體內に於ける石灰の減耗によるものである。動

脈に石灰が沈着するのは體內に石灰が多いからであると唱へるものがあるが、これは誤りで、石灰の沈着するのは動脈の破裂を防ぐ最後の手段であつて決して體內に石灰が多いからではない、むしろ其の反對である。老衰を豫防するのは食物の選擇及び石灰劑の服用が肝心である。食物としてはアルカリ性のものを選ぶべきで、蔬菜、根菜、馬鈴薯、嫩芽、果實等が最も適當である。食事の外、毎日二——三瓦の乳酸石灰或はカルツアン錠（乳酸石灰、ナトリウム鹽）を服用することを推奨する。」（科學雜誌より）

印度の長壽樂

印度では食事の時に食卓に必ず水瓶を忘れない。これは水は不老長壽の天藥とされ、始めに飲めば消化を妨げるが、食後に飲めば身體を肥らして健康の活泉となると云はれてゐるのである。

長命を保つべき適當の睡眠時間

初生兒	二十時間
乳 兒	十三時間——十六時間
二 年	十二時間

三年—五年	十一時間
六年—九年	十時間
十一年—十五年	八時間—九時間
十六年—二十年	七時間—八時間
二十年—五十年	六時間—七時間
五十年以上	四時間—七時間

老子曰く

人生は長期百歳を限りと爲せども能く節護するものは千歳に至る可く、膏の小柱と大柱の如し。衆人は大言にして我は小語、衆人は多煩にして我は小記。衆人は悻暴にして我は怒らず、人事を以て意を累さずして淡然無爲神氣自ら滿つ以て不死の藥となすべし。

貝原益軒の七大養生訓

- 一、言を少くして内氣を養ふ。
- 二、色慾を戒めて精氣を養ふ。

- 三、滋味を薄くして血氣を養ふ。
- 四、津液を飲んで臟器を養ふ。
- 五、怒りを抑へて肝氣を養ふ。
- 六、飲食を節して胃氣を養ふ。
- 七、思慮を少くして心氣を養ふ。

多紀安之（舊幕の名醫）の養生歌（一）拔萃（一）

養生は其身のほどをしるにあり
ほどに過すはみな不養生

藥さへ仕方によれば毒となる
飯と酒とを見ても知るべし。

若き身のちやうぶだのみの不養生
やがて老後の後悔となる

好くこともよき程にせよ耽りては
身の養ひは忘れはつべし
心をば常に靜に其身をば
つねに程よく動かすぞよき
自由なる都人より不自由に
暮す山家に長壽ぞ多き
食物はこなれやすくてやわらかに
味はひあわき品のみぞよき
賤者はおりく厚味食ふもよし
貴人は常に粗食まされり

酒呑めばほろく酔を程とせよ
其盃の數は限らず

年と日のめぐるが如く我業を
つとむる中に養生もあり

百三十三歳の天海僧正の長壽秘訣

- 一、正直に働く。
- 二、日 湯。
- 三、粗 食。
- 四、ものを苦にせぬ事。

僧 正 堀尾貫務

- 一、毎朝四時起床勵行。
- 二、毎夜八時過臥褥。

- 三、毎朝牛乳二合に味噌汁を和し用ゆ。
- 四、午餐夕食は別に好みなし、時に温飴を用ふる事あり。
- 五、間食せず。
- 六、夜食せず。
- 七、煙草を喫せず。
- 八、茶を好まず。
- 九、入浴は隔日。
- 一〇、按摩療法は年四五回。

スタイナー博士の若返り法

一九一二年十二月五日は埃國ウインナの學士院でスタイナー博士が發表した「青春及び老衰に關する研究」によつて老衰若返りの可能を知り全世界の全人類は救はれる喜びに雀躍りした。然し乍ら此の手術に依る若返り法は結局一時的のものであるやうだ。

精力の源泉ホルモン

醫學上に用ひられてゐるホルモンと云ふ名稱は英國の生理學者スターリング氏の命名にかゝるのである。原語はギリシヤ語から起る覺醒、興奮、刺激等の意味を以つて居る。身體の或る臟器、即ち内分泌臟器から一種の化學的物質を産出し、それが直接血行に移行するか、又は間接に淋巴管を経て血液中に輸送されて他の臟器に達し、其の臟器の機能に著しい影響を與へるものがホルモンである。

支那の若返り靈藥

- 三蛇膽酒。蝮がどろ／＼に溶けるまで酒に漬けて置いたもの。
- 周公百歲酒。蝮の膽と虎の骨で作つたもの。旅行用として生薑に含ませたものや、蜜柑の皮に入れたものが出來てゐる。
- 蛤蚧酒。青蜥蜴を酒に浸したのもの。
- 血片。雲南、四川の奥地で六十年間位藥草ばかりの牧場で育てた鹿の袋角。
- 何首烏。草結明。煎じてお茶代りに飲む。

——以上は種類非常に多き爲主なるものを擧げたのである。

長壽者オンパレード

傳説上の長壽者

武内宿禰	三百歳乃至四百歳
西天寶掌禪師	一千七十二歳
奥州白石の農夫段平	六百七十二歳 (文政十二年)
和田安麻呂	六百四十歳 (延暦十六年)
妖尼妙椿	八百歳
八百姫(八百比丘尼)	八百歳
彦炎出見尊	五百八十歳
浦島太郎	八百歳乃至八千歳
支那の彭祖	八百歳
ネストル	三百歳

東方朔 吾國百歳以上の名士

東方朔	三萬八千歳と自稱す
南光坊	二〇〇餘
淺夢和尚	一九九
仙術	一七二 享保八年、醫師
志賀隨	一六七
瓦屋能光	一六三 日向長興寺
教待	一六二 山城圓城寺
平賀源内	一五六 植物學者で戯作者
丹羽太郎妻	一五〇 尾州長久手の人
清丹尼	一四四 大石良雄の娘
沙門行表	一四〇 大和高僧
基燈	一四〇 周防

永田徳本	禪修	一口殘人	舜悅	輝山宗珠	原田覺圓	仁境	杉本一齋	渡邊幸奄	尾張濱主	慈眼大師	小林勘齋	祐慶
一一八	一一九	一二〇	一二〇	一二一	一二一	一二七	一二七	一三〇	一三〇	一三二	一三六	一三八
甲斐徳本とも云ふ醫師	土佐	日光山隱士	武藏、高僧	三河、高僧	藥州の人	大和、高僧		武藏、醫師	伶人	東叡山寛永寺の開祖	醫師	刀匠大進坊と稱す

伊能一雲	荻野鳩谷	尊饒	野馬一道	古結宗軒	榮松	珠鷹	森川武左衛門	寺田正忠	義圓叟	本阿彌明本	全珠	源算
一〇〇	一〇〇	一〇一	一〇二	一〇七	一〇八	一一二	一一二	一一二	一一四	一一五	一一七	一一七
寶藏院槍法の名人		松尾山の寺僧	貴家	松下肥後藩士	深川西光寺開山祖	武藏	大阪の俳優	寺田無禪とも云ふ	貴家	薩摩、禪師	因幡	

黃	願	張	舜	壽	祖	神	伊	羅	季	太	屈	萌
	恩	元			古				元	公	顛	
帝	遠	始	帝	帝	公	農	尹	結	爽	望	恭	京

一一〇	一一二	一一六	一一七	一一七	一一〇	一一〇	一一〇	一一〇	一三六	一三六	一五六	一七七
	鎮離の人				在位三十年			元魏	洛陽		後漢	明

支那百歳以上の名士

寶	召	趙	苑	達	慧	赤	林	常	江	長	鬼
	公		明			松	家		村		谷
公	爽	逸	文	磨	照	沙	正	慶	專	圓	子
一八〇	一八〇	二〇〇	二五〇	二八〇	二九〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
漢	康王の輔弼をす	晉	魏		梁の僧	江戸の儒者	藝人		鴻儒	豊後、刀匠	卜者

禹	王	省	湯	帝	穆
		季	天	王	曼
					王
一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇五	一〇五
					周

長生せる古の文學者美術家

九十歳以上

土佐光信。俊成。北齊。周行。

八十歳以上

信實。鳥羽僧正。季吟。雪舟。宗長。宗鑑。元信。梅室。貞徳。宗祇。也有。蒼虬。馬琴。定家。兼良。藝太。兆殿司。湖山。通明。

七十歳以上

紹巴。蘆庵。杏坪。宗因。野坡。雅望。秋成。常信。文晁。守武。南海。光起。千代。景樹。一橋。眞淵。鵬齋。探幽。巢林。宣長。千蔭。心敬。其碩。

夫婦一族長命なりし例 (古記録)

第一例 三河國寶飯郡水泉村田畑多所持福者。

百姓 滿 平 百九十五

慶長七壬寅生、寛政八丙辰歿

享保年間祝典の際江戸に徴されたる節は當人百十四歳にして死前實に八十一年なりしと云ふ。

寛政八年 滿 平 百九十五歳

妻も ち 百七十三歳

子 萬 右 衛 門 百五十三歳

孫 久 右 衛 門 百五 歳

曾孫以下百歳に満たざるもの尙多數

第二例 因幡國鳥取松原村百姓田畑山林多所持

寛永九年壬申生 松原 仙右衛門 百八十三

正保元年甲申生 同人妻 き の 百七十一

天和二年癸亥生 梓 佐右衛門 百三十一

貞享二年乙丑生	同人妻	いさ	百二十九
正徳元年辛卯生	孫 富右衛門		百三
同 二年壬辰生	同人妻	かね	百一
寶暦五年乙亥生	彦孫	三十郎	六十
同 十一年辛巳生	同人妻	いく	五十四
安永七年戊戌生	曾孫	源之助	三十七
天明五年乙巳生	同人妻	ちよ	三十
寛政十一年庚申生	支孫	源太	十五
同 十年戊午生	同人妻	いの	十七

右六夫婦は珍らしき事なりとて當時領主松平因幡守より苗字帯刀差免米錢差遣候段御届に付御勘定奉行曲淵甲斐守宅へ被召呼青指十貫文被下置候

文化十二年乙亥十一月三日

第三例 奥州盛岡一野村百姓田地二千石餘所持。

延寶八年庚申生	山崎 清左衛門	百四十三	
貞享元年甲子生	同人妻	さん	百三十九

正徳元年甲子生	粹 清 藏	百十二	
同 四年申午生	同人妻	せき	百九
享保十六年辛亥生	孫 清兵衛	九十二	
同 十九年申寅生	同人妻	ふじ	八十九
寶暦三年癸酉生	曾孫 清之助	七十	
同 五年乙亥生	同人妻	はな	六十八
天明二年壬寅生	支孫 清左衛門	四十一	
同 四年申辰生	同人妻	さつ	三十九

右五夫婦珍敷事に付領主南部大膳太夫より苗字帯刀差許米錢差遣候段御届に付御勘定奉行小長谷長門守宅へ被召呼青指十貫文被下置候

文政五年壬午三月五日

竊録せざる高齡の人々 — 古記録 —

正徳五年(二百十一年前)江戸の人生島幽軒八十歳の賀宴に饗饌として竊録せざる高齡の人々のみを招待せし内に左の人々ありしと。

志賀瑞翁	百八十七歳	(轉原越中守家中)
小森閑齋	百三十六歳	(同上)
古結宗軒	百八歳	(松平肥後守家中)
石寺 權左衛門	九十七歳	(御直參)
下條七兵衛	九十一歳	(御直參)
茶人 一雲	九十一歳	(細川采女正家中)
岡本半兵衛	八十三歳	(浪人)

江戸日本橋渡り初めの長壽者——古記録——

元禄十二巳卯年七月朔日江戸日本橋普請出来に付渡り初め大隅國鶴岡松木村の百姓鶴井源左衛門百廿五歳同妻百十三歳惣領藏右衛門九十七歳、同妻九十歳、二男源右衛門九十三歳、同妻九十歳、三男源兵衛八十九歳、同妻七十六歳、源左衛門弟源藏九十六歳、同妻九十二歳、都合十人右松平薩摩守様の御領分より被遣於江戸渡り初め仕候無恙長命の程稀なる事也

精力旺盛な長壽者

伊藤 一雲

八十歳を越えて一子を擧ぐ。

張 元 始	九十七歳の時に子を産む。
ジョン・シエル	百二十歳を越えて一子を擧ぐ。
トーマス・パール	百歳の時一子を擧ぐ。
トクラスグルデン(瑞典)	百十一歳で妻を娶り數子を擧ぐ。
ヂユフルネリ(獨逸)	百十歳で二十六歳の婦人を娶り數子を擧ぐ。
ガスボルレクロム(佛國)	百五歳で結婚し二男一女を産む。

文豪ゲーテの精力

ゲーテは七十九歳の折彼の眼は宛ら若者のように輝いてゐて、その知識力の偉大さは驚歎に價するものがありました。彼の理解力と記憶力とは異常であつて、新知識に對する欲望は終生やみませんでした。八十四歳に達して尙人生の疲れを知らなかつたそうであります。

近代世界一の長壽者

土耳其コンスタンチノーブル生れのザロ・アガと云つて昭和四年に百五十五歳と云ふ大へんな長壽者があつた。當時尙元氣矍鑠として、此の老人の存在は十數年前から幾多の長壽研究者に依つて紹介立證されてゐる。

此の長壽者はクリミア戦争以來英國の軍隊に使役されて評判となつた閨歴もあり、後米國に移住して裁判所の受付係に備はれて居たこともあつた。昭和三年十二月二十四日の朝日新聞によると此の老人は百五十四歳の高齢であり乍ら「美しい英國婦人か、米國婦人を求む」と云ふ第十二人目の妻君の求婚廣告をした所が老人の面倒を見る事が大好きと名乗る英國の婦人連がトルコ駐在の英國大使館宛に續々と媒介役を依頼して來たそうである。

面喰つた大使館では結婚媒介所に非すと云ふので「求婚廣告とは關係無之」と云ふ廣告を出したと云ふ面白い話がある。(聯合通信)

永遠の生命の實例 (支那)

康熙帝時代支那四川省會理縣に生れ當年とつて二百五十二歳の李青雲と云ふ世界第一のすばらしい老人のゐることがわかつた。李さんは幼より藥種商を營み貴州雲南の山奥まで藥草を採集して渡世して來た。頭髮や髭などは百歳の時に白くなつたが今でも元氣で話もはつきりし食慾も人に負けず歩行も平氣である。——中略——李老人の面相は頤が秀で、長く兩耳は福神のやうに大きく垂れ一見仙人そのまゝだと云ふ。(昭和四年九月四日東京日々新聞記載)

人壽に關する諸説

名士、學者の人壽説

百 歳 説	ピュフォン氏、フルーラン氏、ウエーベル氏。
百廿歳 説	リチャードソン氏、ファラチー氏、ジエアン氏、ファイチ氏。
百廿五歳 説	大隈侯、セルヂウオーロフ氏、
百四十歳 説	遊澤子、スミス氏。
百八十五歳以上	山城清士氏、
二 百 歳	フエンランド氏、ハルレル氏、ハーベン氏、松下氏、山崎氏等。

大隈侯の百二十五歳説

人は必ず百二十五歳まで生くる原則をもつものである。長壽と稱するものはそれ以上の年齢を指すものである。近時科學の説く所によると生物はその成熟期の五倍生存すると云ふ事に一致してゐる。人類は普通二十歳乃至二十五六歳で成熟するから此の五倍として百歳乃至百三十

歳までは生存する事が出来るわけとなるのである。我輩は人類の成熟期を二十五歳と想定して
 其の生存期を百二十五歳と断定したのは此の理論によつたものである。随つて八十歳や九十歳
 や百歳即ち百二十五歳未満で死去したものは是は短命と稱すべきもので百廿五歳を越えて生存
 せなければ決して長壽と云ふことは出来ぬのである。此の説は我輩の獨斷でもなければ牽強附
 會の意見でもない。古來の歴史を見ても百歳、百五十歳を保つた人物は必ず少くはないのであ
 る。されば身體と精神とに注意したならば百二十五歳の壽を保つことは決して不可能の事にあ
 らざるのみか是以上更に長壽を保つ事が出来ると信するのである。

動植物の長壽

長壽を保つ植物 (五百年以上)

種類	壽命	種類	壽命
樟	一、〇〇〇年	松	八〇〇年
杉	一、〇〇〇	檜	六〇〇
公孫樹	一、〇〇〇	棕	五〇〇
椎	一、〇〇〇	櫻	五〇〇
樺	一、〇〇〇	榎	五〇〇
檜	一、〇〇〇	落葉松	五〇〇
樅	一、〇〇〇	栗	五〇〇

長壽を保つ動物

象 一五〇—二〇〇年	駱駝 五〇—六〇	獅子 六〇	熊 五〇	鶻 一〇〇—一五〇	鶻 七〇—一三〇	鷹 一三〇
鳥 一〇〇年	鶴 九〇	鷺 八〇	鳩 五〇	鵲 二〇〇—三〇〇	鵲 五〇	鷹 一三〇
蛙 一五—三六年	鯉 一五〇	鰻 六〇	鯰 五〇	イソギンチャク 四〇—七〇		

東京及び近郊の老樹

七百五十年位

麻布善福寺の公孫樹 (周囲三丈高さ六丈五尺)

七百年位

小石川區光圓寺の公孫樹 (周囲二丈八尺高さ八丈五尺)

淺草公園の公孫樹 (周囲二丈高さ九丈五尺)

六百五十年位

本郷區榮松院の大椎

四百五十年位

上野東照宮の樟

四百年位

市ヶ谷高力松 (本村町救世軍士官學校)

陸軍士官學校のいぬ樟、日枝神社の桂、谷中感應寺の樟、上野青龍院の椎、上野竹の臺の椎、上野博物館横の榎、本郷弓町楠屋敷の楠。——(以上舊市内の分)

九百六十年位

府中大國魂神社馬場大門の樺 (周囲二丈七尺五寸高さ六丈)

八百年位

蒲田區六郷、安養寺の公孫樹 (周囲二丈五尺高さ三丈)

七百年位

板橋區志村延命寺のこぶ樺

北多摩郡大國魂神社の神木大公孫樹、同郡拜島天神森の樺

六百年位

府中矢島稻荷の樺、府中桑田邸の老梅録の代、西多摩郡御嶽の神代樺。

五百五十年位

西多摩郡氷川の大杉 (三本杉)

五百年位

南多摩郡元八王子の梶原杉、同郡恩方邊名の老櫻、西多摩郡成木要樂寺の寄生木杉。
王子権現の椎。

四百五十年位

板橋區練馬白山神社の樺、淀橋區戸塚水稲荷の榎、西多摩郡霞村柏神社の榎。

百年位

澁谷區赤十字の宗吾松、世田ヶ谷區圓泉寺の樺、南多摩郡稻城村高勝寺の榎、西多摩郡石
畑明神の樺、同郡三里村廣徳寺の榎。

◆ 成熟期と壽命

	成熟期	壽命
犬	二年	二十二歳—三十四歳
猫	三年—四年	十五歳—廿歳
馬	三十年	四十歳—六十歳
象	羊、山羊、二年	二百歳—二百五十歳
南京鼠、四ヶ月		十五歳—十六歳
		五歳

○人壽は成熟期の八倍以上でありますから人間廿五歳で成熟すれば二百歳以上であります。

この度當店が全國各府縣廳、市村町役場等にお願ひし、又一方、弊店各支店出張所等を總動員して苦心蒐集致しましたのが、この全國百歳以上御長壽者調査でございます。

この爲めに御多用中の各御當局者が、御盡し下さつた御努力によつて、日本で始めての貴重な健康長壽者統計が獲られたのでございます。

弊店は年頭に際して、この健康に輝く百歳以上の御高齢者を弘く世に御紹介するの光榮を有し併せて終始御後援下さつた各位に甚深の感謝を捧ぐる次第でございます。

昭和八年一月

東京
日本橋



三越

調査方法

A Ⅱ 長壽の原因

特に行ひたる健康法
自然に長壽となりし事柄

B Ⅱ 壯年時代よりの職業

C Ⅱ 壯年時代よりの嗜好品

○

東京市深川區永代一丁目十ノ四

寺田そよ殿 (百歳)

天保五年四月生

A、壯年時代より毎朝必ず佛壇に向ひ、讀經す、現在も行ふ。性來樂天的なり。

B、壯年時代、海運業。

C、甘味。

○

東京市王子區稻付西町五丁目一六九六番地

城石三九郎殿 (百〇一歳)

天保四年一月生

A、適度の労働、田園生活。

B、農業。

○

東京市中野區上高田一丁目三六番地

上田千代殿 (百〇五歳)

文政十二年八月生

A、早起早寝、樂天家。

C、果物。

○

東京市澁野川區田端新町三丁目七十三番地

細田はる殿 (百〇三歳)

天保二年一月生

A、静止することを厭ひ、何かしら用を探して働く、早起早寝。

B、壯年時代は上州にて農業。

C、特別になし、食物は嫌ひなるものなし、其他現在でも年老ひたる感なし。

○

東京市蒲田區穴守町一五九二

佐藤彦左衛門殿 (百〇三歳)

天保二年一月生

A、朝四時起床、夜九時就寝。食事時間は常に正確なり。

B、農業。

C、麵類を好む。酒、煙草を嗜まず。其他現在でも用なき節は新割等をなす。

○

東京府北多摩郡三鷹村大澤五五八番地

指田ミヨ殿 (百〇一歳)

天保四年十二月生

A、田園生活。

B、農業。

其他、美食を好み、現在食事の量は壯年者と同様なり。

○

東京市淺草區諏訪町四番地

田端 祐次郎殿 (百 歳)

天保五年十二月生

A、禁酒、禁煙。食事の量を一定し、牛乳一合を飲む、二十二歳の時より早起淺草待乳山聖天堂へ參詣、現在も繼續す。

B、珠數商。

C、夜食の時、盃一杯の葡萄酒を嗜む。

○

東京市本所區龜澤町三丁目三番地

江崎 セイ 殿 (百〇三歳)

天保二年生

A、菜食、如何なる事にも心を勞せず精神を平和に保つ。

B、夫の職業(人形師)手傳ひ。

C、甘味。其他、夫に早く死別。他人の子五人を育てたれども皆早逝。

○

東京市瀧野川區昌林寺

鳥 栖 越 山 殿 (百〇九歳)

文政八年生

A、信仰に依る道德的生活。

B、寺院住職。

C、茶。

○

神奈川県高座郡座間村四ツ谷六三四番地

川 島 ハル 殿 (百 歳)

天保五年二月生

A、粗衣粗食に甘じて仕事に精勵。

B、農業。

C、特別になし。

○

埼玉縣兒玉郡松久村大字廣木百四十三番地

大 澤 よ け 殿 (百 歳)

天保五年七月生

A、粗食労働、幼少より病氣に罹りたることなし。

B、農業。

C、少量の晩酌。

○

埼玉縣北埼玉郡太井村大字門井七六九番地

加 藤 か ん 殿 (百〇一歳)

天保四年四月生

A、諸物に心を勞せず。早起早寢。家事を手傳ひて適度の運動をなす。食事の量を常に一定し、一日一回の便通に努む。

B、農業。

C、甘きものを好む。其他、子供七人あり、一回も寫眞を撮りたることなし。

○

埼玉縣兒玉郡金屋村大字鹽谷三九番地

小林 は ま 殿 (百〇二歳)
天保三年一月生

A、早起、菜食主義、適度の労働

B、農業。

C、三十歳頃より七十歳位まで酒少量を飲む。

其他、生家は長壽の家柄なり。今尙裁縫をなす。

○

埼玉縣北足立郡白子村大字白子九一五番地

老田 は ま 殿 (百〇二歳)
天保四年八月生

A、寺院生活に依り菜食を主とす。

B、寺院傭人。

C、特別になし。

○

栃木縣河内郡羽黒村大字宮山田二五六六番地

小林 シ マ 殿 (百〇二歳)
天保三年十一月生

A、性來強健にして樂天家なり、壯年時代建胃療法として點灸を行ふ。

B、農業。

C、特別になし。

○

群馬縣群馬郡中川村大字大八木二一三八番地

須藤 嘉 造 殿 (百〇二歳)
天保四年十月生

A、早起労働。

B、農業。

C、蕎麥、大根おろし。其他、乗物を厭ひ現在一里以上も徒歩にて買物に赴く。

○

千葉縣千葉郡譽田村高田六五四番地

石井 つ き 殿 (百〇二歳)
天保三年十二月生

A、鮮魚を大好物とすれども、飲食に注意す。

B、農業。

C、中年より少量の酒を嗜む。

○

千葉縣安房郡豊房村古茂口三九〇番地

石渡 む め 殿 (百 歳)
天保五年二月生

A、早起労働。

B、農業。

C、少量の酒を飲む。其他、夫は明治十三年死亡以來獨身。

千葉縣君津郡環村

白駒ふじ殿 (百歳)

天保五年九月生

A、鹿野山麓に生れ、住居は山村の高臺にして風光明媚の地、早起、早寝、適度の労働。

B、農業。

C、酒、煙草少量。其他、今尙繩なひ、草鞋作りをなしつつあり。

千葉縣山武郡豊成村宮四六

佐瀬九左衛門殿 (百一歳)

天保四年十一月生

A、田園生活。

B、農業。

C、なし。

千葉縣山武郡豊成村三浦石二九〇

鈴木喜右衛門殿 (百〇四歳)

天保元年二月生

A、田園生活。

B、農業。

C、なし。

千葉縣安房郡千倉町

石井せき殿 (百歳)

天保五年五月生

A、寺院生活により身心過勞すること無し、菜食専一。

B、僧侶の妻、夫婦生活七八年にして後は獨身。

C、特別になし。其他、現在堂守として孤獨なる生活を送る、寒き日は終日床にあり。

福島縣石城郡勿來町大字關田字雨町二四番地

山名ツル殿 (百〇六歳)

文政十一年六月生

A、菜食専一。適度の労働。

B、農業。

C、特別になし。

福島縣北會津郡荒井村大字三伏甲一六八番地

鶴水字之吉殿 (百〇三歳)

天保二年九月生

A、健康法として謡曲を習ひ、温泉浴等をなす。

B、農業。

C、茶、煙草。

○

福島縣河沼郡坂下町字上窪道北乙七九

稻村カヨ殿 (百〇一歳)

天保四年九月生

A、菜食、性來强健にして病氣に罹りたることなし。精神的に不安なし。

B、裁縫の賃仕事。

C、酒は好物にて壯年時代は相當の酒豪なりしを以て、九十歳迄晩酌二合位。

○

福島市大字福島高舟場町二〇番地

高橋ミト殿 (百〇一歳)

天保四年二月生

A、過食を戒め、粗食に甘じて、業務に精勵す。

B、壯年時代は古着商、明治十二年頃より裁縫に従事す。

C、果實。

○

秋田縣由利郡平澤新町一一二番地

伊藤タケ殿 (百〇三歳)

天保二年五月生

A、性樂天的にして勤勞を厭はず小事に拘泥せず。絶対に肉食をなさず。

B、壯年時代は農業。中年より飲食店を營む。

C、酒を好み、現在にても二合位。

○

仙臺市杉山通り八番地

高橋その殿 (百〇二歳)

天保三年八月生

A、早起早寝。裸體就寝。壯年時代は點灸按摩等缺くべからざるものとして實行す。疲勞したる時は數十分間の睡眠を攝る。

B、壯年時代は酒商、中老時代米商、其後疊表問屋、現在は材木商。

C、禁酒、禁煙、食物は特別に好むものなし。其他、聽視覺完全、齒並正常、今尙漬物

食事の世話などをなす。趣味は芝居、長唄、三味線、舞踏。

○

岩手縣下閉伊郡田老村大字田老第四地割字櫻内一五八番地

倉平ハル殿 (百十九歳)

文化十二年四月生

A、稗、麥を常食とし、居住地は高燥の地にして風光絶佳なり。精神上に不安なく樂天的

生活を送る。

B、農業。

C、なし。其他、未だ婚姻したることなし。

○

愛知縣岡崎市元熊見町七八番地

谷川由太郎殿 (百〇四歳)

天保元年七月生

A、一日二食にして間食せず、菜食。徒步主義。

B、養蠶業。

C、特別になし。

○ 岐阜縣掛妻郡掛妻町

太田 かな 殿 (百〇二歳)

天保三年九月生

A、菜食、適度の労働。四十歳頃より九十歳まで毎月一日午前二時起床。神社へ参詣の爲
二里の道を往復す。

B、壯年時代より綿打業、理髮業(出張)料理店を経て、現在飲食店を営む。
其他、宗教心篤く、情深くして現在まで六名の孤兒を養育す。

○ 山梨縣東山梨郡平等村上岩下六四七番地

大澤 ぶん 殿 (百〇二歳)

天保三年十一月生

A、菜食にして間食せず。仕事好きにして絶えず身體を動かす。日光浴。

B、壯年時代は農業、現在は専ら裁縫、家事を手傳ふ。

C、餅大好物、酒は毎晩三勺づゝ。

○ 山梨縣北都留郡小菅村三三三四番地

島崎 きん 殿 (百〇一歳)

天保四年十一月生

A、粗食にして相當の労働をなすも性來樂天家なり。

B、農業。

C、魚類。

○ 松本市地藏清水八

土橋 みち 殿 (百〇四歳)

天保元年十二月生

A、心當りなきも壯年時代より病氣に罹りたることなし。生活に不安なし。

C、なし。

○ 長野市南石堂町百二十七番戸

石坂 茂三郎 殿 (百〇二歳)

天保三年十月生

A、起床就寝の時間正確。食事の量を一定す。(四十歳位の時肺を患ひしも、魚釣などし
て適度の運動をなし、快癒す。)

B、壯年時代は菓子製造者。現在は雜貨商。

C、茶を好む。壯年時代は酒、煙草を嗜みしも現在は用ひず。

○ 長野縣更級郡稻荷山町七七六

小林 とみ 殿 (百〇一歳)

天保四年一月生

A、飲食物に注意し快活な精神をもつて働くこと。

B、農業。

C、極めて少量の晩酌。

○ 三重縣上野町大字三之西町

細井ひで殿 (百十歳)
文政七年九月生

- A、菜食、淡泊なるもの。
- B、家事
- C、特別になし。

○ 三重縣一志郡松ヶ崎村

安野よそ殿 (百〇四歳)
天保元年十二月生

- A、早起早寝。樂天主義。菜食。
- B、なし(現在は隱居生活)
- C、特別になし。

○ 三重縣名賀郡花垣村

井手きよ殿 (百歳)
天保五年六月生

- A、點灸、粗食にして量を一定す。自然に恵まれたる生活。
- B、農業。
- 其他、九十七八歳頃まで畑仕事をなす。

○ 三重縣安濃郡新町大字八町九七番屋敷

山田貞壽殿 (百〇三歳)
天保二年三月生

- A、信仰に依る樂天的精神。
- B、十二歳より尼僧生活
- C、麵類。

○ 兵庫縣武庫郡精道村芦屋字辰新田六六六番地

日下萬兵衛殿 (百〇一歳)
天保四年十月生

- A、攝生(食事は特に注意し、朝食は必ず粥なり、絶対に間食せず)早起早寝。
- B、壯年時代は油商。又兩替商を營む。
- C、甘味。

○ 兵庫縣伊丹町伊丹

生瀬彌須殿 (百歳)
天保五年十一月生

- A、幼時より健康にして特に心當りなし。
- B、農業。
- C、少量の晩酌。其他、三十九歳にして夫と死別。現在も家事を手傳ふ。

○

兵庫縣朝來郡山口村山口

鴨谷 きよ殿 (百〇二歳)

天保三年八月生

A、性來強健にして、天理教を信じ信者の宅を訪問の爲自然に徒歩運動をなしたり。
B、壯年時代仕立屋、夫に死別後再婚し天理教を信じ信者の宅を訪問。

○

大阪府泉南郡雄信達村大字男里一二二九番地ノ一

南 はな殿 (百〇二歳)

天保三年十二月生

A、なし。
B、農業。
C、なし。

○

大阪府南河内郡道明寺村大字大井七二二番地

仲井 トメ殿 (百〇一歳)

天保四年一月生

A、早起早寝。菜食。静止することを厭ひ絶えず働く。
B、機織。現在は孫の守。
C、なし。

○

大阪府泉南郡大土村土九二二番地

中川 よし殿 (百 歳)

天保五年七月生

A、早起早寝、極めて少食、力一つばいの労働を好む。
B、農業。
C、特別になし。

○

大阪府三島郡三箇牧村大字桂本八四一番地ノ一

酒井 ノブ殿 (百〇四歳)

天保元年十月生

A、飲食物は味淡泊なるものを好む。絶対に間食せず。
B、按摩業。
其他、中年夫に死別して再縁し、二十年前又死別す。

○

大阪府南河内郡白木村大字白木三八六番地

葛田 セイ殿 (百〇一歳)

天保四年三月生

A、性頑健にして適度の労働をなす。
B、農業。
C、酒、煙草少量。

○ 大阪市西區本田町通二丁目二向井清吉殿方
大川 コト 殿 (百 歳)
天保五年一月生

A、心は常に広く明るく保ちて家事に勵む。
B、農業、綿商。
C、番茶を好む。
其他、現在孫の着物を裁縫し、末子(五十五歳)の髭刺などをなす。

○ 京都市左京區淨土寺西田町四七番地
清水 やゑ 殿 (百〇二歳)
天保三年四月生

A、菜食。
B、農業。
C、酒類を好み、壯年時代相當大酒したり、現在も毎晩五勺を欠かさず。
○ 京都市天田郡下川口村字上天津二〇四五番地
須藤 さと 殿 (百〇三歳)
天保二年生
A、早起早寢、菜食。住宅は通風採光宜しく、生活に不安なし。
B、農業。
C、甘味。

○ 京都府與謝郡上宮津村字喜多六五戸
上野 ふう 殿 (百〇一歳)
天保四年六月生

○ 京都府天田郡金山村字長尾
瀬川 かな 殿 (百〇一歳)
天保四年十月生

A、天性樂天家なり。
B、農業。
C、なし。
○ 京都府與謝郡宮津町字本町七六七番地ノ一
土屋 すて 殿 (百〇三歳)
天保二年四月生
A、牛乳を朝夕一合宛飲む。適度の運動。生活に不安なきこと。
B、牛乳商(牧舎を持つ)
C、甘味
其他、現在にても新聞を見ることを楽しみとす。

○

京都府船井郡世木村字中世木小字宮ノ奥六番地

廣瀬 くに殿 (百〇一歳)

天保四年六月生

A、少食を旨とす。適度の労働。
B、二十歳より約五十年間砥石の採掘及び販賣に夫と共に従事す。
C、果實を非常に好む。

其他、現在も視力衰へず眼鏡を用ひずして針仕事をなす。

○

京都府與謝郡宮津町字宮本三五六番地

前田 つる殿 (百〇二歳)

天保三年十月生

A、點灸、按摩、菜食、早起して墓參を日課となす。
B、小間物商、老年に至り菓子雜貨商を營む。
C、なし。

○

京都府與謝郡宮津町字鶴賀一八戸

佐川 ひろ殿 (百〇一歳)

天保四年八月生

A、菜食、壯年時屢々點灸を行ふ。
B、質屋業(老年に至り廢業す)
C、禁酒、禁煙。
其他、聽視覺完全、家事全般自身にて行ふ。

○

和歌山縣日高郡藤田村大字吉田二一七六番地

藤田 フサ殿 (百〇五歳)

文政十二年六月生

A、適度の運動。努めて清水を飲むこと。信仰心篤く温和なる性格。
B、農業、七十歳頃には運動の爲と稱して附近の村落へ反物等を賣り歩く。
C、酒は近年迄一日一合位飲みたり。

○

奈良縣高市郡天満村大字奥田

中川 クリ殿 (百〇一歳)

天保四年十一月生

A、性樂天的。生活に不安なし。按摩は度々行ふ。
B、農業。
C、甘味。

○

奈良縣生駒郡北倭村大字高山

中峰 こう殿 (百〇一歳)

天保四年三月生

A、平素點灸を施せり。
B、農業。
C、酒、現在も一回二合位飲む。
其他、兄弟皆長命なり。

○

富山縣上新川郡黒崎村針木村九十三

松原ヨキ殿 (百〇五歳)

文政十二年十月生

A、自然に恵まれ、粗衣粗食に甘じ、早起勞働をなす。
B、農業の手傳ひ、農藝品製作。
C、特別になし。

○

富山縣下新川郡生地町吉田新二百六十番地

吉田清三郎殿 (百〇七歳)

文政十年十二月生

A、自己の職業に精勵し身體を鍛ふ。
B、漁業、農業。
C、酒、煙草。

○

石川縣羽咋郡西海村宇風戸町一二四番地

東さい殿 (百〇五歳)

文政十二年二月生

A、壯年にして夫に死別し爾來獨身にて魚行商を行ひ、相當の資産を有するを以て生活上に不安なく樂天的な心持ち。

B、自作農、兼魚行商。

C、十年前より極少量の酒を嗜む。
其他、壯年時代より甘味強きものを食さず、六十歳より養子を迎へ隠居す。

○

鳥根縣鹿足郡津和野町大字後田口百三十番地

大庭キク殿 (百〇二歳)

天保三年九月七日生

A、飲食物に注意し腸胃を害せしことなし。
B、農業。
C、なし。

○

鳥根縣暹摩郡大國村大字大國八百八十五番地二

坂本チエ殿 (百歳)

天保五年一月生

A、心當りなし。
B、農業。

C、特に嗜好のものなきも嫌ひなる食物なし。
其他、母は八十七歳にて死す 子五人の内三人死し、二人現存。何れも六十歳以上。

○

鳥根縣邑智郡田所村大字下龜谷七四〇ノ一

日野シン殿 (百〇一歳)

天保四年八月生

B、農業。
C、特に嗜好品なきも食物は嫌ひなるものなし。
其他、家族は長壽の血統なり。現在にても、針の穴へ糸を通し、五百米遠方の人の行動を識別し得。

○

岡山縣吉備郡庭瀬町大字西花尻二一五番地

吉井波留殿 (百歳)

天保五年三月生

A、早起、勞働八十歳位までは山へ松葉を掻きに行く、病氣に罹りたることなし。

B、農業。

○

吳市吉浦町四三〇一番地

中川キヲ殿 (百〇二歳)

天保三年八月生

A、心當りなし。

B、農業、漁業の手傳ひ。

C、特別になし。

○

吳市阿賀町五七九〇番地

中島平次郎殿 (百〇一歳)

天保四年十月生

A、早起早寝。

B、農業。

C、壯年時代は晩酌三合位、現在は五酌位。

○

廣島縣山縣郡雄鹿原村

上手卯三郎殿 (百〇一歳)

天保四年十一月生

A、壯年時代より身體非常に強壯にて業務に専心す。

B、農業。

C、酒は壯年時代に多少飲みしも煙草は全然喫せず。

○

廣島縣安佐郡可部町六九八番地ノ二

加登セツ殿 (百〇三歳)

天保二年二月生

A、まめくしく働く事。

B、なし。

C、少量の酒。

其他、中年以後佛教に歸依。

○

廣島縣甲山町

森田キヨウ殿 (百歳)

天保五年九月生

A、心當りなし。

B、農業。

C、特別になし。

○ 廣島縣竹原町

永田 タツ 殿 (百〇四歳)

天保元年八月生

A、壯年時代より暴食せず攝生を守る。田園生活にて心身に不安なし。
B、農業。

○ 山口縣大津郡向津貝村

村田 源左衛門 殿 (百〇一歳)

天保四年一月生

A、天性強健にして適度の労働をなす。常に心を平和に保つ。
B、農業。

C、酒(毎日小盃一杯を飲む)。煙草。

其他、食事は相當大食なり。

○ 山口縣大島郡日良居村

岩本 シナ 殿 (百〇一歳)

天保四年十月生

A、原因に就ては心當りなくも本人は浮島と稱する周圍三里の島に居住。
B、漁業兼農業。

C、なし。

○ 山口縣美禰郡眞長田村大字眞名四百七十一番地

秋本 キヌ 殿 (百〇二歳)

天保三年九月生

A、早起早寢、勞を厭はず樂天家なり。

B、製紙業並に農業。

C、酒を好む。九十歳頃より一日二合位飲む。茶。

○ 山口縣熊毛郡周防村第三百十三番屋敷

高橋 トヨ 殿 (百〇三歳)

天保二年二月生

A、早起早寢、間食をせず。

B、農業。

C、特別になし。

○ 山口縣佐波郡防府町大字三田尻村一六九〇番地上自力

安村 ツマ 殿 (百〇二歳)

天保三年十一月生

A、心當りなし。

B、八年前迄農業に従事せり。

C、別段になし。

山口縣熊毛郡上關村大字長島三八七八番地
小村ハナ殿 (百〇一歳)
天保四年九月生

A、壯年時代より藥を飲みたることなし。
B、農業。
C、酒少量。

香川縣香川郡大野村大字寺井一三四六番地
官脇イタ殿 (百〇二歳)
天保三年生

A、自然生活と適度の労働。
B、農業。
其他、食事は一日四回・魚類を好む。

香川縣三豊郡下高瀬村二六三五番地
岩本爲藏殿 (百〇一歳)
天保四年六月生

A、適度の労働。
B、農業。
C、餅。

徳島縣麻植郡東山村一一七番地
村田善藏殿 (百〇三歳)
天保二年十一月生

A、心當りなし。
B、農業。
C、なし。

高知縣香美郡立田村九十一番屋敷
枝重もと殿 (百〇一歳)
天保四年九月生

A、早起早寝、家内平和にして、經濟上にも心を勞すべきことなし。毎日必ず冷水を飲む。
B、農業。
C、なし。

高知縣香美郡横山村仙頭二九四六番地
下村伊勢殿 (百〇二歳)
天保三年五月生

A、五十歳迄米食をなさず、麥、粟、稗を食す。五十歳以後多少米を食す。
B、農業。
C、砂糖。
其他、現在畑仕事をなし、針に糸を通すに眼鏡を用ひず。

○

熊本縣登立町一二四七三番地

古川 ルイ 殿 (百 歳)

天保五年八月生

A、心當りなし。

B、農業。

C、酒少量、煙草は喫せず。

○

熊本縣葦北郡水俣町大字小津奈木一〇二七番地

牧 サネ 殿 (百 歳)

天保五年二月生

A、樂天的性質、適度の労働。

B、農業。

C、三十歳頃より毎日晝食夕食の際盃に二三杯位酒を飲む。

其他、就寝起床時間不定。

○

長崎縣西彼杵郡瀬戸町板浦二〇四

濱口 辰五郎 殿 (百 歳)

天保五年三月生

A、壯年時は毎年點灸をなす。粗食にして過食せず。

B、農業。

C、なし。其他、今日尙杖を用ひず。

○

長崎縣東彼杵郡川棚村六五八番地

橋 口 ミチ 殿 (百〇三歳)

天保二年十一月生

A、心當りなし。

B、半農半漁の家に嫁し、畑仕事に従事す。

C、少量の酒を嗜む。

○

北海道紋別郡下流村ウツツ六號

戸 梶 鶴 殿 (百 歳)

天保五年二月生

A、過食を慣む、家庭圓滿にして生活に不安なし。

B、水田耕作。

C、甘味。

其他、男子二人を生む、何れも健在。

○

北海道忍路郡鹽谷村大字蘭島村鐵道官舎

工 津 フミ 殿 (百〇九歳)

文政八年三月生

A、適度の労働。

B、漁業の手傳ひ。

C、少量の晩酌。

○

東京府北多摩郡小平村小川一〇四〇番地

田中テル殿 (百歳)

天保五年十一月生

A、早起早寝。睡眠を充分に執る。間食せず、適度の労働。

B、農業。

C、甘味。

○

愛知縣丹羽郡丹陽村大字平島一四〇五番地ノ二

大島きの殿 (百〇一歳)

天保四年一月生

A、粗食にして小食。禁酒禁煙。日の出前に起きて農事に精勵。

B、農業。

C、特別になし。

○

三重縣度會郡中島村大字阿曾浦二八番地

山下いは殿 (百〇三歳)

天保二年三月生

A、夜具や着物は成る可く薄くして皮膚を強くするやうに努む。常に樂天的氣分を保つ。

B、なし。

C、異物。

○

大阪府豊能郡麻田村大字麻田一四四三番地

掛井はる殿 (百歳)

天保五年十月生

A、早起早寝。適度の労働。

B、農業。

現在裁縫をなすに眼鏡を用ひず。

○

大阪府住吉區川生通り一ノ六番地

橘うた殿 (百歳)

天保五年八月生

A、間食せず、精神上不安なきこと。

B、なし。

C、特別になきも、食物は甘味より鹽辛き方を好む。

○

廣島縣御調郡奥村大字大原

石川トヲ殿 (百歳)

天保五年四月生

A、早起、樂天的。

B、農業。

○

鳥取縣西伯郡境町中町三四番地

岡 空 み や 殿 (百〇二歳)

天保三年六月生

A、早起早寝。食事は小食主義。

B、なし。

C、餅、晚酌一杯宛。

○

徳島縣美馬郡江原町三四〇番地

香 西 ユ ウ 殿 (百〇三歳)

天保二年十月生

A、粗食に甘じ早起労働。

B、農業。

C、餅。

○

徳島縣海部郡日和佐町大字日和佐浦一四ノ一

井 筒 サ ン 殿 (百〇三歳)

天保二年二月生

A、早起早寝、信仰心篤く。毎日早朝より十數町の神社に参拜。過食を避く。

B、漁業の手傳ひ。

C、餅。

○

福岡縣三井郡御井町二三四番地

渡 邊 ア サ 殿 (百〇二歳)

天保三年七月生

A、心當りなし。

B、農業。

C、特別になし。

其他、父母、姉妹共に九十歳以上の長命なり。

○

長崎縣南高來郡安中村大字安中木場二一一番地

坂 井 ツ ノ 殿 (百 歳)

天保五年六月生

A、田園生活に於ける労働。

B、農業。

C、酒。

○

東京市板橋區練馬北町三丁目一三二九番地

田 中 り ん 殿 (百〇三歳)

天保二年生

A、性質活動的にして二三年前まで畑仕事をなす。現在は子守等して悠々暮す。

B、農業

C、食物に好き嫌ひなく、酒、煙草を嗜む。

○

東京府八丈島大賀郷村

沖山すむ殿 (百〇一歳)

天保四年一月生

A、田園生活、粗食。
B、農業。

其他、耳目、歩行、壯者と同じ、家族皆長壽。

○

埼玉縣南埼玉郡黒濱村大字江ヶ崎二番地

折原みか殿 (百〇三歳)

天保二年四月生

A、粗食、適度の労働。

B、農業。

C、酒少量。

○

茨城縣眞壁郡新治村大字横塚二番地

日向てい殿 (百〇二歳)

天保三年八月生

A、早起。食事の量を一定し、間食せず、壯年時代より活動的生活。

B、農業。

C、餅、赤飯。

其他、家族は長壽の系統なり。

○

宮城縣黒川郡吉岡町字上町七一番地

關ころ殿 (百〇三歳)

天保二年一月生

A、早起早寝、飲食に注意。

B、農業、養蠶。

C、甘味、等。

○

静岡縣四方郡韭山村

中川忠兵衛殿 (百〇一歳)

天保四年二月生

A、少食。

B、農業、二十年間温泉場の物品販賣をなす。

C、特別になし。

○

静岡縣小笠原郡原田村

小倉ゑん殿 (百〇二歳)

天保三年生

A、特別に心當りなし。

B、農業。

C、餅。

二

○ 愛知縣西春日井郡西春村中ノ郷三三八七番地

後藤 せい殿 (百歳)

天保五年三月生

A、過食を慎む。宗教を信じ、心の平和を保つ。

B、農業。

C、酒、煙草少量を嗜む。

○ 廣島縣高田郡刈田村

城崎 ソノ殿 (百〇四歳)

天保元年七月生

A、早起早寝、過食を慎み攝生す、愉快に労働すること。

B、農業。

C、特別になし。

○ 徳島縣板野郡板西町大寺岡ノ前一四九番地

永峰 ハル殿 (百〇一歳)

天保四年三月生

A、早起早寝、過食せず勤勞を尊ぶ。

B、農業。

C、特別になし。

○ 徳島縣麻植郡鴨島町鴨島七六八番地

北村 ヒサ殿 (百〇一歳)

天保四年九月生

A、早起。食物は味淡白なるものを攝る、心を努めて平和に保つ。

B、農業。

C、餅。

○ 臺灣基隆郡萬里庄下万里加投字頂寮二七番地

郭陳 氏令殿 (百歳)

天保五年二月生

A、四歳の時父と共に支那より渡し臺空氣新鮮なる海濱に居を構へ、壯年時代より相當に労働す。

B、夫と共に農業に従事。

C、七十歳の頃より酒を嗜む。

○ 神奈川縣鎌倉郡深澤村手廣四八九番地

齋藤 臺次郎殿 (百歳)

天保五年九月生

A、禁酒禁煙。通風採光宜しき住居。

B、青年時代木綿打を業として後農業。

其他 現在は藁細工、竹細工等を好みてなす。

○ 静岡縣濱名郡北濱村小林一二番地

小畑 さめ 殿 (百〇三歳)

天保二年五月生

A、早起早寝。間食せず。神社に参拜し安心立命の裡に業務を勵む。

B、農業。

C、煙草。

○ 静岡縣智茂郡濱崎村字柿崎七〇六番地ノ一

田 中 吉郎兵衛殿 (百〇一歳)

天保四年八月生

A、早起。

B、半農半漁。

C、特別になし。

○ 愛知縣知多郡西浦村大字樽水字新居一二五番地

柴 川 み き 殿 (百 歳)

天保五年九月生

A、間食せず。

B、家事に従事するのみ。

C、少量の砂糖。

○ 岐阜縣山縣郡葛原村

長 野 彌平次殿 (百〇二歳)

天保三年五月生

A、少食。

B、柚。農業。

C、晚酌一合。餅。

○ 滋賀縣蒲生郡北都佐村小御門二三番地

關 寺 與左衛門殿 (百〇五歳)

文政十二年二月生

A、毎日早起して散歩。間食せぬこと。心に悩みを持たず、すべてに感謝の念を以て當ること。

B、五十年間は土木請負業、後、農業、商人。巡查、現在は通學兒童の爲に特設された電車の踏切り番。

C、煙草、酒は毎日三勺づゝ。

○ 山口縣大津郡日置村字中村

長 瀬 サ ツ 殿 (百〇一歳)

天保四年五月生

A、適度の労働。

B、農業。

C、特別になし。

表查調者壽長上以歳百國全

(調日一月一年八和昭)

府縣別	男	女	計
北海道	三	六	九
東北	四	七	一一
東京	〇	二	二
京都	〇	〇	〇
大阪	一	二	三
神奈川	一	二	三
兵庫	一	二	三
長崎	一	二	三
新潟	一	二	三
埼玉	一	二	三
群馬	一	二	三
千葉	一	二	三
茨城	一	二	三
栃木	一	二	三
奈良	一	二	三
和歌山	一	二	三
徳島	一	二	三
香川	一	二	三
愛媛	一	二	三
高知	一	二	三
福岡	一	二	三
大分	一	二	三
佐賀	一	二	三
熊本	一	二	三
鹿兒島	一	二	三
宮崎	一	二	三
鹿児島	一	二	三
沖縄	一	二	三
北海道	三	六	九
東北	四	七	一一
東京	〇	二	二
京都	〇	〇	〇
大阪	一	二	三
神奈川	一	二	三
兵庫	一	二	三
長崎	一	二	三
新潟	一	二	三
埼玉	一	二	三
群馬	一	二	三
千葉	一	二	三
茨城	一	二	三
栃木	一	二	三
奈良	一	二	三
和歌山	一	二	三
徳島	一	二	三
香川	一	二	三
愛媛	一	二	三
高知	一	二	三
福岡	一	二	三
大分	一	二	三
佐賀	一	二	三
熊本	一	二	三
鹿児島	一	二	三
沖縄	一	二	三
合計	一七〇	二一六	三八六

以上の調査は十二月二十五日までの報告に基づいたものでありますが全調査は会場に掲げました。

三共

昭和七年十二月卅日 印刷納本
昭和八年一月一日 初版發行

非賣品 不許複製

編輯者 東京三越 豊泉益三
發行所 日本橋三越 延命長壽の會
印刷者 井口成士

印刷所 東京市小石川區西江戸川町一〇 井口印刷合名會社

三十三餘年研究の成果

ライオン歯磨



歯は「腕」です。
強き歯は、即ち健康長壽を
意味します。

磨る前のライオン歯磨は、
必ず強き歯を造ります！

ライオン歯磨本舗小売店 商店

東京・大阪・名古屋

A7-8.1

御愛兒將來の
御幸福の爲めに

三井生命

御加入を切に
御勧めいたします

三井生命保險株式會社

東京市日本橋區室町

(三井二樓)

帝 國 生 命

明
る
く
温
か
く



最 も

光輝ある歴史
堅實なる経営法
進歩せる學理
低廉の保険料

本邦保險界之開祖

明治生命保險株式會社

東京丸の内

六〇一一長一〇一一
七七二一・二〇一一
八七二一・三〇一一 } (23)内ノ丸話電
九七二一・四〇一一
・五〇一一

株主な社会

相互組織

利益は加入者に配當す

基礎鞏固
業績優秀
信用絶大

保險業内調査

東京市京橋區京橋二丁目

千代田生命保險相互會社



科學的に立證されて

不老強精法

老いて益々旺なんぞ

齡僅かに四五十年で既に老衰して見る影もあれば、齡七十歳を越ゆるも矍鑠として壯者を凌ぎ、或は廟堂に立ち、或は實業に掌つて不眠不休の活動をして居る人もある。これは老衰が必ずしも年齢に正比例するものでない事を物語る證據である。

しかし 一般には前記の早老者が最も多く、四十にして若さを失ひ五十にして老衰し、六十にして既に餘命を保つに過ぎないのであ

る。ところで老衰の最大原因は何かと言ふとメチニコフ博士の説を俟つ迄もなく新陳代謝機能の減退體内に於ける老廢物の蓄積による自家中毒である。

だから 早老を防ぐには、先づ身體全體の諸機能を活潑に、新陳代謝機能を旺盛にして、老廢物質を排除するに如くはないのである。かうした見地から最近「理研ヴィタミンA」が賞されるが、ヴィタミンAは元來人體の抵抗力を増進し發育を補強する作用あり、此新

陳代謝機能の旺盛化と老廢物質の排除に缺くべからざるものである例へば、動物試験によつても老衰した鼠等に理研ヴィタミンAを與へると忽ち活氣づき、毛髮皮膚が若返り、老衰現象は消散して生殖作用の復活を明かに看取し得るのであつて、理研ヴィタミンAに依つて合理的な老衰防止と精力補給が行はるゝ明かな證左である。

科學的新養素

「理研ヴィタミンA」

製造元 財團 理化學研究所

發賣元

玉置合名會社

WAKAMOTO



胃腸を整へ・食慾を亢進する

栄養酸素劑

【警告】

眞正酵母劑の最高標準を示す「わかもと」類似酵母劑に誤まざるゝ勿れ

わかもと

適應症 胃酸過多症、胃弱、便秘、下痢、結核、脚氣、神經衰弱、糖尿病、綠便、乳汁不足、一般衰弱其他

藥價低廉

末粉 九〇瓦入 一圓六十錢

粉末 二七〇瓦入 四圓五十錢
 五四〇瓦入 八圓五十錢
 錠劑 一三〇錠入 一圓六十錢
 八〇〇錠入 五圓

發賣元 東京芝公園 養育と兒童の會

三越の各地支店

新 宿 支 店
 銀 座 支 店
 大 阪 支 店
 神 戶 支 店
 金 澤 支 店
 高 松 支 店
 札 幌 支 店
 京 城 支 店
 大 連 支 店

○本店一月の催物より

◇人形逸品會 十九日より 四階西館

◇名寶人形の會 十九日より キヤラリー

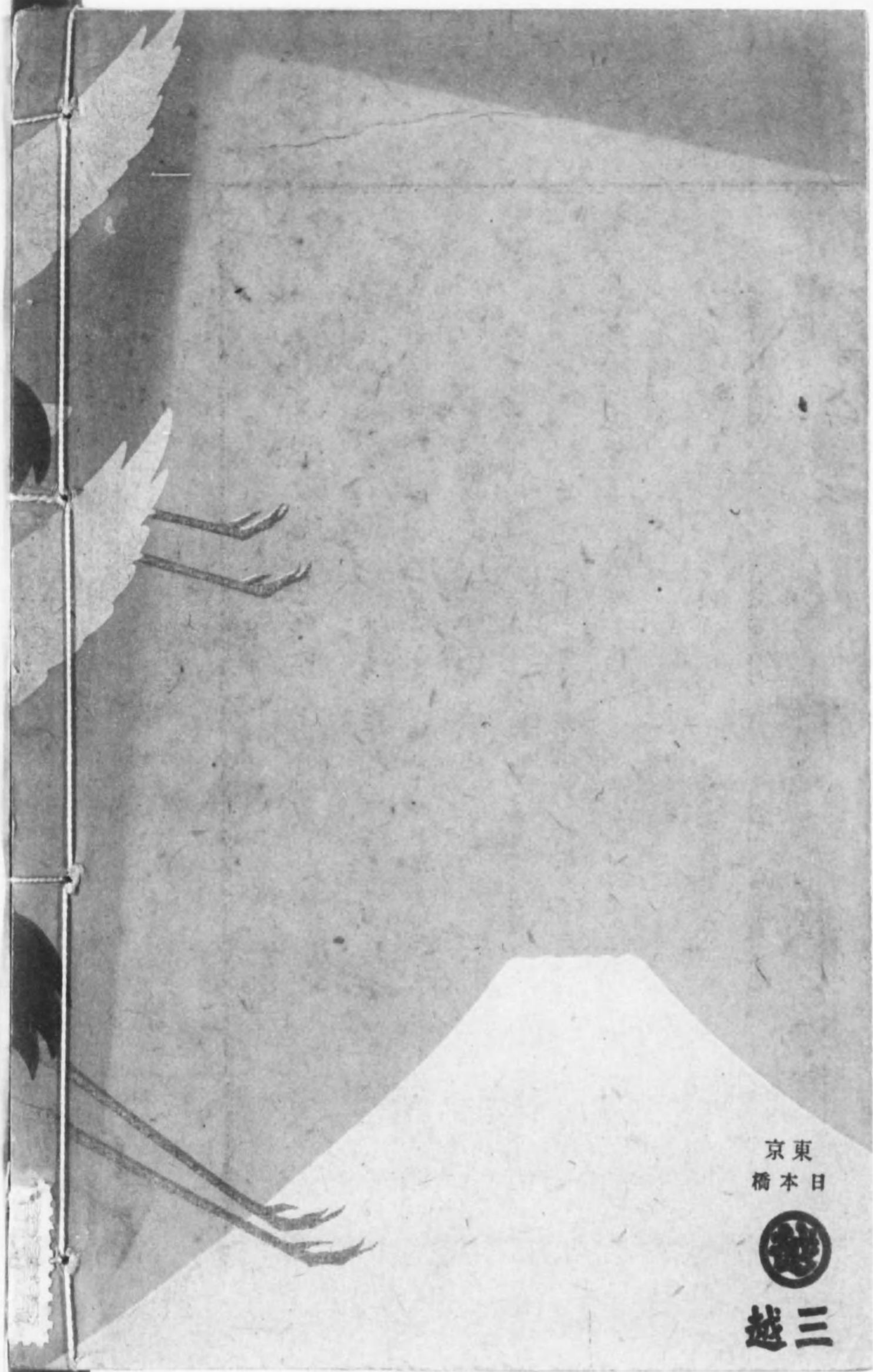
全國の名工匠がその腕の巧みを見せた目ざましい催作揃ひです。
 全國各地より蒐めた古代の名寶人形數百點、何れも人形藝術の粹にして御鑑賞を仰ぎたまひませう。



越 三

東 日
 京 橋 本

終



京東
橋本日



越三